

第5回 契約・調達管理会議 議事要旨

1 開催日時

令和5年10月4日（水曜日）16時00分から18時00分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎14階 14D会議室（オンライン会議併用）

3 出席者

（1）委員（敬称略、五十音順、○委員長）

○鵜川 正樹 監査法人ナカチ（公認会計士）
川口 貴史 一般財団法人東京2025世界陸上財団総務企画室財務副部長（契約・調達課長事務取扱）
齋藤 政秀 東京都生活文化スポーツ局国際スポーツ事業部事業調整第一課長
滝口 広子 北浜法律事務所・外国法共同事業（弁護士）
三浦 大助 東京都生活文化スポーツ局事業調整担当部長
森谷 真咲 公益財団法人日本陸上競技連盟事務局経営企画部管理課長

（2）事務局

東京都生活文化スポーツ局

4 要旨

（1）開会

（2）議事（発言者の敬称略）

東京 2025 世界陸上競技選手権大会チケットング計画等作成業務委託【資料2】

<説明・確認>

案件の概要について、事業担当者から主に以下を説明。

- （ア）チケットング計画等を作成し、集客や入場料収入の確保、観客への利便性の確保につなげるため、本委託を行う。
- （イ）主な業務として、チケット需要調査の実施、チケットング計画の作成、チケット販売に係る諸制度の整理（例：基本方針、スケジュール、座席計画、チケット価格・種類・形式等）、提案依頼書（RFP）の作成支援業務、アドバイザリー業務を委託する。

<質疑・意見など>

森 谷：チケットの販売業務については、本契約とは別に契約を予定しているのか。

担当者：本契約の後続契約として、チケット販売システムの構築とチケット販売業務に関する

る契約を予定している。本契約では、その後続契約の RFP の作成を業務内容の一つとしている。

鵜 川：チケットの販売計画と RFP の作成は内容的に大きく異なるものだが、これらを併せて委託する理由は。

担当者：チケットの需要調査や販売計画を踏まえて RFP を作成するため、一体的に発注することで最も効率的に業務を進められると考えている。

鵜 川：本契約と後続契約を一括で発注するという選択肢はあるか。

担当者：本契約の仕様の検討をする中で、事業者ヒアリングしたところ、システム構築と RFP を合わせて一括で発注するのは、提案の自由度が高すぎて受託が困難だと言われた。

滝 口：RFPがない状態で、RFPの策定からチケットシステムの構築まで一括で業務を発注するのは、事業者が入札に参加しにくくなると思料される。

鵜 川：本契約のうち RFP の内容が、後続契約において、特定の事業者に優位となる内容にならないよう担保する必要がある。

担当者：ワールドアスレティックス（WA）の意見も踏まえながら、汎用性・効率性の高い RFP となるよう確認を行う。

鵜 川：RFP は専門的な内容になること、後続契約の公平性にも大きく関わることから、客観的な目で、本契約の受託者とは別の専門家から外部チェックをしてもらうことが重要だ。

担当者：了解した。

三 浦：結果的に本契約と後続契約の受託者が同じになった場合、契約手続きの妥当性を示し、対外的に納得を得られる説明をする必要がある。

鵜 川：本契約のアドバイザー業務において、本契約の受託者が後続契約に向けた優位な情報を知ることがないよう、財団において情報管理を徹底してほしい。

担当者：了解した。

（３）委員長によるまとめ

・契約予定案件については、各委員の意見もふまえ、条件付き（※）で、契約手続きを進めていただきたい。

※条件は以下のとおり

- ・ RFPの内容について、汎用性、効率性を確保するため、外部チェックする仕組みを設ける旨を仕様書に記載する。
- ・ アドバイザー業務において、本契約の受託者に後続契約に係る優位な情報が知られないよう、財団においては情報管理を徹底するなど、必要な対応を実施する。

（４）閉会